

## サイクリングネットワーク再構築

春需でソフトも売ろう！ ⇔ 自転車旅の商品化？

日本の実情にあった自転車遊び

自転車ソフトの多様化とセキュリティ

「THT Japan Ver. 2・6」と「テトラバランス」……P2～P3

B×Cの提案/ポタリング/ファストラン/MTB……P4～P6

ご協力のお願い・その他(資料)/{補足}……P7～P10

本来「THT」は、トレジャーハントツーリングのこと。

Ver.2・6では、“THT26”的“T”と、“ハンドレッド・バイ・ハンドレッド”的“H”と、“シンクMTB”的“T”から。

つまり自転車ソフト三原色の「ポタリング」「ファストラン」「マウンテンバイク」のこと。

『Ver.2・6』以前と将来…！

「Ver.1 中級者への提案」（1993年～2003年）

“どれどれバイク”も“ブルベ”も日本では馴染みの薄い“ツーリングコンペティション”という、実は上級者向け（苦笑）。

「Ver.2 サイクリング未満の提案」（2005年～2012年）

そのノウハウを活かしたポタリングバージョンが“THT26”ですが、逆にサイクリングでは無いと酷評される（涙）。

「Ver.3 ユザワヤ方式の提案」（2016年以降）

当企画で自転車ソフト三原色の定期リリースを実現し、“春需でソフトも売ろう！”のイメージを醸成したい。

ユザワヤは、都内の手芸用品のチェーン店。あらゆる素材を揃え、それらを使った手芸教室を開き、さらに展示会も催すという、究極のマッチポンプ型マーケティングを展開。

何故『Ver.2・6』？

「Ver.2・6 普通の道を普通に走る」（2013年～2015年／延長アリ）

“どれどれバイク”も“ブルベ”も“THT26”も、ソロで楽しめば、全く問題が無い。しかしグループだと集団暴走行為！？

つまり『Ver.2・6』は、自転車ソフトの標準化と機会均等を考えるアイドリング期間。

現状分析と  
活動指針の  
方向性

自主企画の「どれどれバイク」「ブルベ」「自転車さんぽ」、さらにメーカー・行政のイベント運営で、関連団体や警察と情報交換し、また、建設コンサルタントや環境団体との交流もあって様々な角度から自転車走行環境を検証している。そして震災を挟んで、日本の自転車事情のコアな部分に同席する機会を得て、“日本の道”や“楽しむ環境”は、自転車にとって未だ不連続だと再認識した。

そのひとつに自転車の日常利用とスポーツ利用の二面性がある。その隔たりを「自転車さんぽ境界線」で埋めたい。年齢性別車種不問で楽しめ、主催者の大小や目的を選ばない「THT26+自転車さんぽ」は、日本のどこの街でも実施可能のように、普通の道を普通に走るために工夫が施されており、その可能性を秘めている。そして、その新たなキーワードを共有するための自転車版賢人会議「山の辺の道サミット」も提案したい。

インフラ整備の必要無い自転車ソフトの重要性を訴えるには「山の辺の道サミット」だけでは不十分なため、地味ソフト「THT26」の欠点を補う「4タイプ提案」や、47都道府県に100km推奨コースを設定する「ハンドレッド・バイ・ハンドレッド」や、山道をMTBで走る法的根拠を考える「シンクMTB」などの、自転車ソフト3原色の実証実験を多くの関係者に見える形で継続したい。

その見える形での提案として、複数媒体とのタイアップページや、旅行カウンターにも置ける自転車旅冊子の配布を考えており、そのページタイトル「B×C(バイシクル・バイシクロ)」は、“自転車遊びは十人百色”や“自転車多様性”という意味。そして『Ver.2・6』は、全国のサイクルショップで“春需でソフトも売ろう！”の確立が前提の『Ver.3』へ向けてのアイドリング期間であり、自転車旅の商品化に向けた課題を探る。

P9の  
[補足]も  
ご覧ください。



## … テトラバランス …

# 最終案

平成エコ系自転車ブームの追い風は、間違いなく吹いている。

しかし、エコや観光や都市交通再生では、自転車の驚き(楽しさや可能性)を十分に表現できない。

「自転車の驚きは普遍」という意味を込めた「Bike is Good!」。

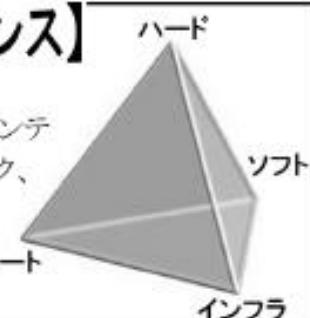
それをキャッチフレーズに日本の風土(※注)に合った自転車遊びを探る実証実験を行ってきた。

そして「THT26」に辿りつき、さらに副産物として見つけたのが「テトラバランス」。

### 自転車環境正四面体

### 【テトラバランス】

自転車多様性を、**ハード**:自転車(作る、売る、使う、メンテナンス)、**ソフト**:使い方(楽しむ、仕掛ける、ネットワーク、日常利用と余暇活動)、**ハート**:人(ルール、マナー、テクニック)、**インフラ**:環境(道路、セキュリティ、ハート保険、サイクリングクラブ)の4つに凝縮。



未だ、ハードやソフトに車種や楽しみ方の異なる組み合わせを入れ、インフラやハートの変化を確かめている段階。

しかし、その途中段階でも、多くの自転車関連企画の不連続性にも行き当たっている。

活動指針2013~2015では、下記のキーワードを基に、サイクリングネットワーク再構築への課題を探りたい。

- ハード／供給体制の棲み分け……………小売店、量販店、通信販売、そしてスーパープロショップの共存は可能か？
- ソフト／使い方、楽しみ方の標準化……………“サイクリング大会”は、特例処置。“Cycling”的標準化が未成立のため！？
- ハート／自転車遊びのライセンス……………年齢性別車種不問で楽しめる自転車。使う人のハートと力量が問われている！
- インフラ／旅人目線の交通基本法……………自転車にとって不連続な道を旅人目線で見つけ“移動の自由”を勝ち取ろう！！

★サイクリングネットワーク再構築のテトラバランス的最終目標は、地域貢献を視野に入れた「サイクリングクラブ」の充実です。

★サイクリングネットワーク再構築の課題は、自転車旅の商品化に陥されたセキュリティの不備に正面から向き合うことです。

※注:環太平洋造山帯にある温帯モンスーン気候の日本列島に育まれた自然や歴史や風俗、そして制度やインフラも含む。



B×Cのポタリングページを、隔月で連載するなら、  
‘13年5月・8月・11月 ‘14年2月・5月・8月・11月 ‘15年2月の8回を想定。

# 最終章



## ●旅チャリ杯・萌黄 & 紅葉のラーディ

自転車は楽しむスピードで、「ポタリング」「ツーリング」「ファストラン」そして「レーシング」と分けられる。その中、ポタリングは死語に近かったが、ここ最近の平成エコ系自転車ブームで、ホールディングバイクやミニクロが注目され、その楽しみ方として復活しつつある。

\*  
\*  
\*

そして現在、JTBや自転車メーカーの企画協力を得ながら、春の「萌黄のラーディ」と秋の「紅葉のラーディ」として、共同告知全国集計で実施しており、全国の仲間が独自運営をしたり、ショップやNPOと連携して運営したりと、21都府県で実施実績があり、会場は述べ200箇所を超えている。

今年も萌黄&紅葉は実施予定で、詳細は「旅チャリ26」で検索して下さい。



## レースを含むスポーツサイクリング全般と提唱するB×Cのポタリングのページです。

### ●4タイムズ提案(運営チーム募集)

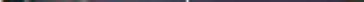
年齢性別車種不問で楽しめる「旅チャリ26」は、主催者の大小を選ばず、規模や内容も自由自在で等身大の運営が可能な、七色の変化球的な自転車遊びソフトです。

\*

\*

\*

それには、独自に調査・運営が出来る運営スタッフが各地に必要です。春と秋のタイミングで実施するとしても、日程やエリアや運営の調整には各会場の事情もあるので、向こう4シーズンの会場候補地や、運営チームを随時募集します。



### ●THT Demo

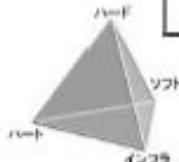
春と秋のタイミング以外で、自転車関連行事等で「旅チャリ26」を実施する場合は、「THT Demo」として実施可能です。

\*

\*

\*

\*



<http://bikejoy.web.fc2.com/THTjapan/THTJv2.6BxCALL2.pdf>